

小田高WEBの存在(その2)

二年ほど前からこのサイトへは、僕はほぼ毎日訪れて皆さんにお会いしている。

すこし大袈裟ながら、小田原から多摩地方に移住してから四十年は経つが、元来が引つ込み思案の僕の周りには、当然のように知った人が居ない。

今思うに、よくそれで生きて来たな！と感慨深いほどだ。

投稿するようになったのは、二年前、昔からの親友である2組下赤氏と4組今道氏から背中を押されたことだった。それが無ければ、今もなお実に寂しい存在に落ち込んでいたに違いない。

その後も支えてくれる彼らには、感謝以上の表現が浮かばない。

そして、WEBへ投稿し続け、同窓諸氏の発信に接する内、今道氏のいう「書くは自分を確立し、読むは自分を省みる」を、大分感ずることができるようになってきたかも知れない。

歳を重ねて来て、ようやくにして、はつきりとした考えを抱くように至った変化をうれしく感じている。

下手でも何でも、長く書き続けていると、自分の考えを纏めたり、他人の主張に気づかされることになるのかも知れない。

(以降は、つい最近の小田高WEBで気付かされた掲載分に感謝を込めて)

6組S氏の俳句、ごく自然に呼吸するような感覚で詠まれている感じを受け、その取り組み様を羨ましく思っている。僕なんかは肩肘張ってしまつて、無いはずの頭脳まで動員して、結局何も詠めずに終止する。

何事も打ち込むことに対して虚心坦懐、そうした姿勢になれるよう、励みたいと思つた。

7組S氏のグラフィカルな作品。以前に遡って拝見すると、一貫して視覚に訴えた情報発信をし、その異質な伝達方法が面白い。

合い間の投稿「MINAMATA」を拝読した時、その映画鑑賞後の過ごし方がとても粹に感じた。

4組I氏の短歌の表現は古典の雰囲気漂い「好き」だ。

但し書きと合わせて詠むと、主旨が具体的に示されて、世界が抱える問題等に対する毅然とした姿勢がはつきりとし、短歌という短い文章故に印象的で、強い共感を得る。但し書きでダブル効果が発揮されるのだろうか。

それは、I氏の時事に及ぶ論説文に於いても然りて、一貫した姿勢にも共感し勉強になる。

3組S氏の国際感覚に根ざした世界観には敬服するばかりで、英語も苦手で国際情勢に疎い僕には到底及びもつかない論説だ。

また、花や魚のエッセイなどは、その情報量に驚く。一方バーチャル紀行などは到底僕には真似のできない芸当で、コナで封じ込まれた日常から脱した如く自由に旅の世界を愉しんでおられる。

なお、これまでお付き合いが無かったが、個人的にメールも賜う様になつて、随分と励まされ教えられること多く、前に進む元気を与えてくれる存在で嬉しい。いわばWEB友だ。

7組Y氏の「サ高住」。当初は僕にはあまり関係ないのかな？と思つていたが、レポートを読み進める内、むしろ前向きで強い生き方に関心が向くようになった。また改めて見返すと、素晴らしいガイドになっている。気が滅入るに違いないことを陽気に変えてる！その姿勢が素晴らしく、学びたい。

遡つて同氏の書き物を拝読すると、ものすごい執着心で取り組む姿に迫力を感じる。最近、愉快なメル友になつた。

4組O氏、専門分野の現役で世界を飛び回っている。あまりの彼我の差を感じて、羨ましい限り。でも、同期の誇りを感じてしまつた。

さらに、刺激を求めて、当サイトを遡上したいと思う。(了)